

I. はじめに

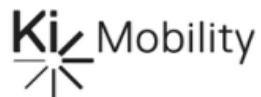
リバティーFTをご購入いただきありがとうございます！

はじめにこのマニュアル全体を読むことなく、この車椅子を使用しないでください。乗車する前に、担当医・セラピスト・車椅子販売店によるこの車椅子の安全な使用に関するトレーニングを受ける必要があります。

この車椅子、このマニュアル、弊社またはお客様の小売業者が提供するサービスについてご質問やご不明な点がある場合は、お気軽に電話でお問い合わせください。

株式会社ユーキ・トレーディング
〒110-0008
東京都台東区池之端2-5-46
TEL : 03-3821-7331
FAX : 03-3821-7552
MAIL : info@yukitrading.com
HP: www.yukitrading.com

製品取扱説明書



LIBERTY *FT*

II. 目次

I. イントロダクション

II. 目次

III. 注意-使用前にお読みください

A. 安全にご使用いただくために	3
------------------------	---

IV. 警告

A. 注意喚起語	3
B. 一般的な警告	4
C. ベルトまたはハーネスの位置決め.....	5
D. 乗車時	5
E. パワードライブ（電動）	6
F. 階段を上る	6
G. 階段を下る	7
H. トランスファー（移乗）	7
I. 車椅子と使用環境について.....	7
J. 車椅子の改造について	8
K. 車椅子の安定性について	8
L. クッションを変更する際の注意点.....	9

V. 車椅子のセットアップとご使用

A. リバティーFTと付属部品	10
B. 車載の使用	11
C. 高さ調整式T型アームレスト	14
D. チューブラーフリップアップアームレスト	15
E. 角度・長さ段階調整式フリップアップアームレスト	16
F. スイングアウェイハンガー	17
G. 4-wayラッチ付きスイングアウェイハンガー.....	17
H. 延長チューブ	18
I. エレベーターティングフットレスト	19
J. プロエレベーターティングフットレスト(Pro ELR)	20
K. マルチアングルフットレスト	21
L. バックレスト	22
M. ストラップの調整・取り付け	23
N. 車椅子の折りたたみ方・開き方	24
O. チルト機構	26
P. 後輪	27
Q. ホイールロック	28
R. 転倒防止装置	29
S. 酸素ボンベホルダー	29

II. 目次

VI. メンテナンス

A. 車椅子のチェック	30
B. 日常のメンテナンス	31
C. 清掃・洗浄	32
D. 保管	32

VII. 保証 33

III. ご使用前にお読みください

A. 安全にご使用いただくために

Ki Mobilityは、ニーズに合ったさまざまな車椅子を製造しています。特定の要件に最適なモデルや、車椅子のセットアップおよび調整方法を選択する際には、担当医・セラピスト・車椅子販売店に相談してください。車椅子の種類、オプション、調整の最終選択は、あなたと彼らあなたの医療専門家のみが行います。選択したオプション、車椅子のセットアップと調整は、その安定性に直接影響します。安全性と安定性に影響する考慮すべき要素は次のとおりです。

- 筋力、バランス、適合など、個人の能力。
- 日中に遭遇する可能性のある危険と障害の種類。
- 特定の寸法オプション、セットアップ。特に、シートの高さ、シートの奥行き、シートの角度、バックレストの角度、後輪のサイズと位置、フロントキャスターのサイズと位置。これらのアイテムのいずれかを変更すると、車椅子の安定性が変わります。資格のある専門家に相談してから変更を行う必要があります

IV. 警告

A. 注意喚起語

このマニュアルには、注意喚起の言葉が記載されています。これらの単語は、さまざまなハザードの重大度を識別して伝えるために使用されます。この車椅子を使用する前に、あなたとあなたを介助する人は、このマニュアル全体を読んでください。注意喚起の用語に注意し、「**危険**」「**警告**」「**注意**」を考慮してください。すべての指示に従い、車椅子を安全に使用してください。注意喚起の用語は、あなたまたは他の人に重傷または死亡を引き起こす可能性のある危険または危険な行為を指します。次の2つの主要なカテゴリに分類されます。

警告 - 回避しないと、重傷または死亡につながる可能性のある潜在的に危険な状況を示します。

注意 - 回避しないと、怪我や車椅子の損傷につながる可能性のある潜在的に危険な状況を示します。

これらの注意喚起の用語は、危険な状況を強調するために、必要に応じてマニュアル全体に配置されます。この車椅子の一般的な使用に適用される危険な状況については、次のリストを参照してください。

WARNING

警告：このマニュアルの全ての支持に従わない場合、またはこのマニュアルに記載されていない方法で車椅子を使用した場合、重傷または死亡に繋がる可能性があります。

IV. 警告

B. 一般的な警告

WARNING

警告：本フレームの重量制限を超えないでください。

	標準
Liberty FT	250 lbs (113 kg)

重量制限とは、ユーザーと持ち運ぶ全てのアイテムの合計重量を指します。重量制限を超えると、椅子が損傷したり、転倒・転落したりするリスクが高まります。転倒または転落は、重傷または死亡に繋がる可能性があります。

- ウェイトトレーニングに椅子を使用しないでください。追加のウェイトの動きにより、椅子の重心が変化し、転倒のリスクが高まります。転倒すると、椅子が損傷したり、重傷を負ったり死亡する可能性があります。
- タイヤの空気圧が適切になっているのを確認してください。タイヤの空気圧が不適切な状態で椅子を使用すると、安定性に影響を与え、転倒のリスクが高まります。転倒すると、椅子が損傷したり、ユーザーや他の人が重傷を負ったり時には死亡する可能性があります。正しいタイヤ空気圧がタイヤのサイドウォールに表示されます。不明な場合は、車椅子の販売店に適切な空気圧がどうか確認してください。
- タイヤの空気圧が不足していると、ホイールロック（ブレーキ）が正しく機能しない場合があります。ホイールロックで椅子を固定できないと、コントロールが失われたり、転倒したりすることがあります。これにより、重傷または死亡に至る可能性があります。
- 9度を超える傾斜またはスロープは避けてください。急な斜面は、転倒や転落のリスクを高めます。転倒または転落により、椅子が損傷したり、あなたや他の人が重傷を負ったり死亡する可能性があります。9度を超えている傾斜またはスロープ（直線約30cmあたり約5cmの上昇/下降）では椅子を使用しないでください。
- 氷、油、水で覆われた表面は避けてください。滑りやすい傾斜により、転倒または転落する可能性があります。転倒または転落により、椅子が損傷したり、重傷または死亡に至る可能性があります。
- 車椅子の側方や後方に寄りかかり手を椅子の外に伸ばさないようにしてください。椅子に寄りかかると、重心が変わって不安定な状態になり、転倒または転倒するおそれがあります。転倒または転落により、椅子が損傷したり、重傷または死亡に至る可能性があります。
- 使用中に、取り外し可能な部品で車椅子を持ち上げないでください。取り外し可能なパーツ、例えばアームサポートやフットサポート、で使用中に車椅子を持ち上げると、ユーザーが転倒したり、コントロールを失う可能性があります。転倒または転落により、椅子が損傷したり、重傷または死亡に至る可能性があります。

CAUTION

注意：部品をフレームに取り付ける際、ボルトやハードウェアを締めすぎないでください。締め過ぎると、椅子に損傷を与える可能性があり、耐久性とパフォーマンスに影響を及ぼすことがあります。

注）ボルトまたはハードウェアを適切に締める方法がわからない場合は、販売店にお問い合わせください。

IV. 警告

C. ベルトまたはハーネスの位置決め

⚠ WARNING ⚠

警告：ポジショニングベルトまたはハーネスを使用するときは、自分の座位姿勢を維持できないユーザーを一人にしないでください。ユーザーが滑り落ちてベルトやハーネスに巻き込まれ、重傷や死に至る場合があります。

ポジショニングベルトは、車椅子上での適切なポジショニングを支援するように設計されており、シートベルトとして設計されていません。ユーザーの姿勢をサポートする目的でのみポジショニングベルトを使用してください。

ポジショニングベルトの誤用は、ユーザーの重傷または死亡の原因となる場合があります。

- ユーザーが車椅子上でポジショニングベルトの下を滑らないようにしてください。この場合、ユーザーの呼吸が妨げられ、死亡または重傷を負う可能性があります
- ポジショニングベルトは、姿勢を保持できる程度には締まっているが、呼吸を制限するほどきつくならない程度にぴったりとフィットしている必要があります。ポジショニングベルトとユーザーの間で手をスライドさせることができる程度です。
- 以下のような場合にはポジショニングベルトを使用しないこと。
 - a. 拘束具としての使用。拘束には医師の指示が必要です。
 - b. 意識を失っているユーザー。
 - c. 自動車の乗員拘束装置として。ポジショニングベルトは、乗り物のフレームに取り付けられているシートベルトを置き換えられるようには設計されていません。急停止による力で、ユーザーは前方に投げ出されます。車椅子のシートベルトではこれを防ぐことはできず、ベルトやストラップでさらに怪我をする可能性があります。トランジットの使用（V. 車椅子のセットアップと使用-セクションB）を参照してください。

D. 乗車時

車椅子は、コンクリート、アスファルト、フローリングなど平らな地面で使用するよう設計されています。濡れた路面や滑りやすい路面で車椅子を押す場合は注意してください。

⚠ WARNING ⚠

警告：砂、ゆるい土壌、起伏の多い地形で椅子を押したり使用したりしないでください。このような表面で使用すると、安定性が失われ、転倒または制御不能になる可能性があります。転倒または制御不能により、椅子が損傷したり、重傷または死亡に至る可能性があります。

- 車椅子を公道で使用しないでください。公道で車椅子を使用すると、重傷または死亡に至る可能性があります。車椅子は公道での使用が合法ではありません。公道で椅子を使用する必要がある場合は、自動車の危険に注意してください。
- 障害物や道路の危険を回避してください。障害物と危険-例 道路の陥没、舗装の破損-転倒、転落、制御不能を引き起こす可能性があります。転倒、転落、制御不能により、椅子が損傷したり、重傷を負ったり死亡する可能性があります。
- 車椅子でエスカレーターに乗らないでください。エスカレーターで車椅子を使用すると、転倒、転落、操縦不能になる可能性があります。転倒、転落、制御不能により、椅子が損傷したり、重傷または死亡に至る可能性があります。

IV. 警告

E. 乗車時（続き）

これらのリスクを最小限に抑えるには：

1. 乗車中に危険に注意しながら十分前方を確認してください。
2. 生活空間の床が水平で、障害物がないことを確認してください。
3. 部屋間の敷居を取り除いたり、覆ったりしてください。
4. 入口または出口のドアにスロープを取り付けます。ランプの下部にくぼみがないことを確認してください。
5. バランスの中心を調整するには：
 - a. 障害物を越える時や上りの時は上体を前に少し傾けます。
 - b. 下りの時に、上半身を後方に傾けます。
6. 転倒防止が付いている場合は、障害物越える前にそれらを所定の位置でロックします。
7. 障害物を乗り越えるときは、両手をハンドリムに当ててください。
8. 車椅子を進めるために、本体で家具や戸棚などの物を押ししたり引いたりしないでください。
9. 所定の横断歩道以外の道路、通路、高速道路で車椅子を操作しないでください。
10. 介助なしで障害物を動かそうとしないでください。

E. パワードライブ（電動）

⚠ WARNING ⚠

警告：承認されていない外部電源ドライブシステムを椅子に取り付けしないでください。承認されていない外部電源駆動システムを使用すると、椅子の機械的な故障や、転倒、転落、制御不能の原因となる可能性があります。転倒、転落、制御不能により、椅子が損傷したり、重傷または死亡に至る可能性があります。

Ki Mobilityでは、Liberty FT車椅子にパワードライブシステムを取り付けることはお勧めしません。

Liberty FTは、電動車椅子として設計またはテストされていません。パワードライブシステムをLiberty FTに追加する場合は、パワードライブシステムの製造元が、パワードライブシステムとLiberty FTの組み合わせが安全で効果的であることを検証および承認していることを確認してください。

F. 階段を上る

注）：この車椅子で階段を上るときは、ユーザーと車椅子の体重を支えるのに十分な力とスキルを備えた2人以上の人に手伝ってもらいます。

- 車椅子とユーザーを階段の下方に移動します。
- 1人はユーザーの後ろに、もう1人は前に付いてもらいます。前にいる人は、車椅子の取り外し不可能な部分を持ってください。
- 後ろの人が椅子を後方に傾けた状態で、前後両者で一緒に持ち上げ一歩ずつ確実に上ります。
- この際に、転倒防止を裏返すか、取り外す必要がある必要があります。車椅子を使用する前に、転倒防止取り付けられているか、裏返されていることを確認してください。

IV. 警告

G. 階段を下る

注)：階段を下るとき、ユーザーは前を向く必要があります。

- ・ ユーザーと車椅子の重量をコントロールするための力とスキルを持っている人が、椅子を後ろに傾け、椅子を一度に1段ずつ階段を下ります。
- ・ この際、転倒防止は裏返すか、取り外す必要がある場合があります。車椅子を使用する前に、転倒防止装置が取り付けられているか、裏返されていることを確認してください。

H. トランスファー（移乗）

⚠ WARNING ⚠

警告：必ず訓練を受けてから、自分で移乗したり、介助してもらい移乗するようにしてください。自分で移乗するのは危険です。バランスや俊敏性が必要です。車椅子があなたの下になくときは、常時移乗中のポイントに対して注意してください。正しく移乗しないと、転倒・転落して重傷または死亡に至る可能性があります。

移乗には、適切なバランスと安定性が必要です。自分で移乗を試みる前に、セラピストからトレーニングを受ける必要があります。

注)：車椅子から移乗する前に、移乗前と後の面の間をできるだけ少なくしてください。

- ・ ブレーキをかけて後輪をロックします。
- ・ 前輪キャスターを前方に回転させて、車椅子のホイールベースを長くします。
- ・ フットレストを取り外すか、スイングさせます。
- ・ 移乗の経験が少ない方は、出来るだけ介助者に手伝ってもらってください。

I. あなたの車椅子と環境について

⚠ CAUTION ⚠

注意：水や過度の湿気にさらされると、車椅子の金属が錆びたり腐食したり、布地が破れたりすることがあります。水に濡れた場合は、できるだけ早く椅子を乾かしてください。

- ・ 車椅子をシャワー、プール、または水のある環境で使用しないでください。これにより、車椅子が錆びたり腐食したりし、最終的に故障します。
- ・ 車椅子を砂浜で操作しないでください。砂はホイールベアリングや可動部品に入り込む可能性があります。これは損傷を引き起こし、最終的には車椅子が故障する原因となります。
- ・ 車椅子で乗り入れする可能性のある段差、スロープ、カーブが安全であることを確認してください。傾斜が大きすぎると傾斜を横切って、上または下に乗ると、安定性が失われる可能性があります。

IV. 警告

J. 車椅子の改造について

⚠ CAUTION ⚠

注意：車椅子は、厳密な設計管理の下で製造されています。そのため、さまざまな部品がそれぞれ正しく連携するようにされています。そしてその一つ一つの部品の品質を保証するためにさまざまな基準でテストが行われ、正しく連携することが確認されています。このマニュアルに従って調整するか、メーカーの承認オプションを追加することを除き、誰もこの車椅子を変更してはなりません。フレームの加工を含むオプションは承認されていません。Ki Mobilityが提供していないアクセサリや部品を追加する前に、ユーキ・トレーディングまたはご購入された販売店やに連絡してください。

K. 車椅子の安定性について

⚠ WARNING ⚠

警告：使用する前に、傾斜（チルト）する際に車椅子が安定していることを確認してください。この椅子には、シートフレームの傾斜角度を変えるシステムが装備されています。不安定さや転倒の可能性を避けるため、チルトをかけた際に車椅子が安定していることを必ず確認してください。転倒により製品が損傷したり、ユーザーが重傷または死亡に至る可能性があります。

注)：車椅子のセットアップは、資格のある技術者のみが行う必要があります。

セットアップ（毎日使用するアクセサリ等をすべて含めます）に関して

- ・ この製品は、ユーザーの体重や座った状態の変化に応じて再調整する必要があります。
- ・ 車椅子設定の変更をしている間は、転倒防止を使用してください。

車椅子の適切な安定性を確保するには、重心と車椅子のサポートベースがユーザーのバランスと能力に対し正しく機能しているか確認してください。不安定な場合の多くは下記のことに起因します。

- | | |
|----------|-------------|
| ・ シートの高さ | ・ 後輪のサイズと位置 |
| ・ シート奥行 | ・ 前輪のサイズと位置 |
| ・ 背角度 | ・ 座面クッション |
| ・ シート角度 | ・ チルトポジション |

一般的に、最も重要な要素は、後方への安定性をはかる為の後輪の位置です。安定性に悪影響を及ぼす可能性があるアクションは他にもありますので、あなたのニーズと能力に精通しているセラピストや車椅子販売店に相談してください。

⚠ WARNING ⚠

警告：車椅子上で体重が変わるときや、車椅子に変更を加えるときは注意してください。重心を変更すると、車椅子に安定性がなくなり、転倒または転落する可能性があります。転倒または転落により、椅子が損傷したり、あなたや他の人が重傷または死亡する可能性があります。着替え、物を運ぶ、物に手を伸ばす、スロープの上り下りなど、毎日の活動中に重心の変化が何度も発生します。これらの活動の際は重心の変化に注意し、転倒防止の使用など、転倒のリスクを最小限に抑える予防策を講じてください。

IV. 警告

K. 車椅子の安定性について（続き）

▲ WARNING ▲

警告：キャスター上げで縁石や障害物を乗り越えようとする際は危険な操作になります。訓練を受けていない場合は、キャスター上げを試さないでください。この操作は転倒につながる可能性があります。転倒すると、重傷または死亡に至る可能性があります。

転倒のリスクを最小限に抑えるためのいくつかの方法

- 転倒防止が機能していることを確認する。
- 介助者が後方で支援する。

L. クッションを変更する際の注意点

▲ WARNING ▲

警告：車椅子のクッションを追加・変更すると、車椅子の重心が変化する可能性があります。重心の変化は車椅子の安定性に影響を与え、車椅子の転倒または転倒を引き起こし、重傷を負う場合があります。車椅子の使用説明書を常に見直し、クッションを追加・変更した後に十分な安定性が得られているかを確認し、車椅子の変更が必要かどうかを確認してください。

- 床ずれの防止は、この製品の使用を含め、日常生活や病状のさまざまな側面に影響されます。必ずあなたの医療関係者によって確立されたすべてのスキンケアレジメンに従ってください。また、医師の指示に従って皮膚の変化を定期的に検査する必要があります。そうしないと、重傷または死亡につながる可能性があります。

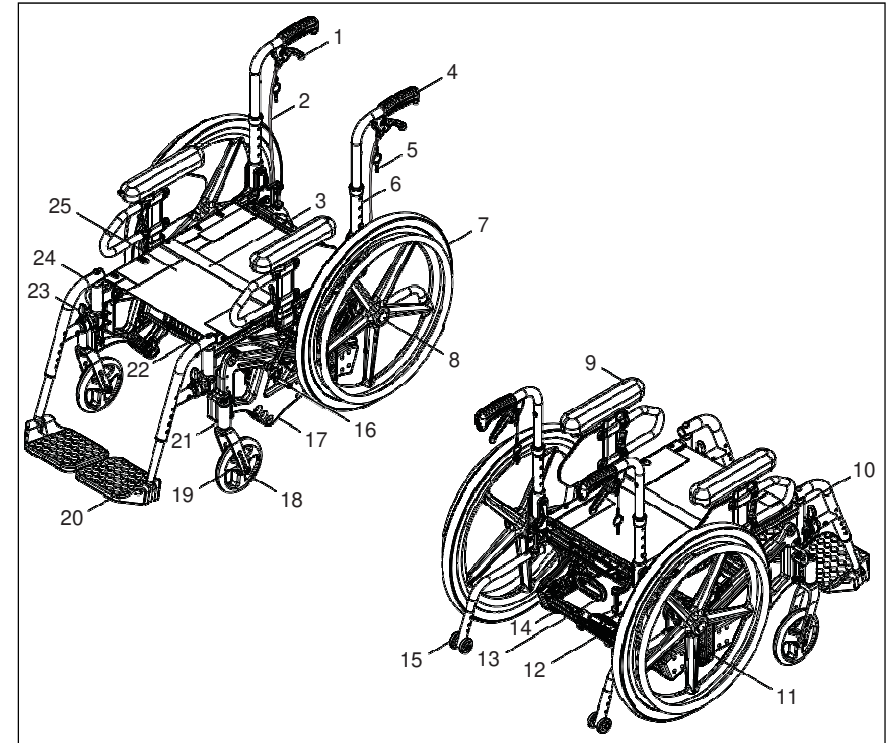
適切なシーティング製品の選択

クッションとポジショニング製品を選択する前に、車椅子のクッションとポジショニングに精通している医師またはセラピストに相談することをお勧めします。これにより、ユーザーの状況に適合した製品を確実に受け取ることができます。

V. 車椅子のセットアップとご使用

A. リバティー FT と付属部品

1. この車椅子の点検は、30ページの「メンテナンス」を参照してください。
2. 問題を発見した場合は、車椅子の使用前に必ず調整・修理を実施してください。
3. 毎年、認定サプライヤーより車椅子の完全な検査、安全確認、および点検を受けてください。



- | | | |
|---------------|-----------------|------------------|
| 1. チルトレバー | 10. ベースフレーム | 18. キャスターホイール |
| 2. チルトケーブル | 11. 車軸プレート | 19. キャスターフォーク |
| 3. 折りたたみストラップ | 12. フッドパッド | 20. フットレスト |
| 4. プッシュハンドル | 13. 折りたたみプルハンドル | 21. キャスターアーム |
| 5. レバーロックピン | 14. バックブレース | 22. フロントブレース |
| 6. 背パイプ | 15. 転倒防止装置 | 23. スイングアウェイ |
| 7. 後輪 | 16. ブレーキ | 24. スイングアウェイハンガー |
| 8. クイックリリース車軸 | 17. サイドフレーム | 25. 座面シート |
| 9. アームレスト | | |

V. 車椅子のセットアップとご使用

B. 車載の使用

⚠ WARNING ⚠

警告:車載オプションが取り付けられていない車には座席として使用しないでください。シートベルトとショルダーベルトを適切に使用して、車椅子から自動車のシートに移るのが最も安全です。この車椅子を自動車の座席として使用する場合、車載オプションが装備されていないと、重大な人身事故につながる恐れがあります。

車載オプションを装備したリパティーFTは、RESNA WC-4:2012, セクション19:自動車の座席として使用される車椅子、およびISO 7176-19:2008車椅子の試験に合格しています。RESNAおよびISO規格は、自動車で使用する座席としての車椅子の構造的完全性を試験するために設計されている。これらの規格は、車いす固定システムおよび乗員拘束システム(WTORS)との互換性を確保するように設計されています。

リパティーFTは、仕様によっては車載オプションを取り付けることができない場合があります。Ki Mobilityはご注文いただいた仕様を管理しており、互換性のある仕様以外はリパティーFTを提供しません。既にご使用のリパティーFTを変更する場合は、販売店またはKi Mobility社に連絡して、引き続き自動車の座席として使用することが適切であることを確認してください。

アフターマーケットシートは、車載オプションの一部として設計およびテストされた、元の装置のシートおよびバックサポートに代わるものです。車椅子の提供者は、提供している座席がオリジナルの製品か純正の製品かをお伝えする必要があります。本項の基準に適合した、車椅子フレーム、座席、車椅子固定装置、乗員拘束装置及び適切な装備の自動車の完全なシステムは、車載オプションを備えたリパティー FTを自動車の座席として使用する前に必ず設置してください。

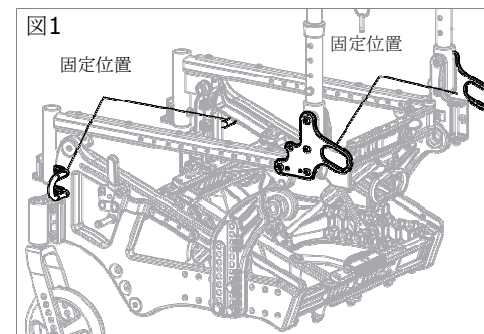
車椅子を自動車の座席として使用する場合は、必ず以下の指示に従ってください。

- 車椅子搭乗者は、必ず前向きに座ってください。
- 車椅子搭乗者と全ての荷物の総重量は113kgを超えないようにしてください。
- リュックサックとポーチは別々に取り外して自動車に固定する必要があります。事故が発生した場合、これらの物品は危険な発射物となり、自動車の乗員を負傷または死亡させる可能性があります。
- 車椅子搭乗者は、RESNA WC-4:2012,セクション18に準拠した車椅子固定装置および乗員拘束装置を使用してください。: 自動車またはISO 10542-1で使用するための車椅子固定および乗員拘束システム: 2012技術システムと障害者または障害者のための援助 -- 車椅子固定および乗員拘束システム
--パート1:すべてのシステムの要件とテスト方法

V. 車椅子のセットアップとご使用

B.車載の使用（続き）

- 車いす固定製造元の指示およびRESNA WC-4:2012,セクション18またはISO10542-1:2012-Part1に従って、車載オプション (図1) を使用して、Liberty FT車いすの四つの固定ポイント(前面2カ所、背面2カ所)に車いす固定具を取り付けます。



- 乗員拘束装置製造者の指示及びRESNA WC-4:2012,セクション18又はISO10542-1:2012,Part1に従って、乗員拘束装置を取り付ける。
- ラップベルト、チェストストラップ、ショルダーハーネス、その他のポジショニングストラップシステムまたはポジショニングアクセサリーの使用は、RESNA WC-4:2012、セクション18またはISO10542-1:2012、パート1に従って製造業者によってそのようにマークされていない限り、乗員拘束として使用しないでください。
- ヘッドレスト、ラテラルサポート、またはその他のポジショニングアクセサリーの使用は、RESNA WC-4:2012、セクション18、またはISO 10542-1に従って製造業者によってそのようにマークされていない限り、乗員拘束として使用しないでください。: 2012、パート1またはRESNA WC-4:2012、セクション20: 自動車で使用するための車椅子の座席システムまたはISO 16840-4:2009車椅子の座席-パート4: 自動車で使用するための座席システム
- 取り付けと調整を行った後、オリジナル装置の背面カバーの天板は、肩から4インチ(2.54センチ)以内に収めてください。
- アフターマーケットの座席は、RESNA WC-4:2012,Section20またはISO16840-4:2009-Part4に準拠しているかどうか確認してください。
- 座席の製造元の指示書およびRESNA WC-4:2012,Section20またはISO16840-4:2009-Part4に従って、座席を車椅子のフレームに取り付けてください。
- トレイ、酸素タンクホルダー、酸素タンク、IVボール、バックパック、ポーチなどの市販の付属品、およびKi Mobilityが製造していないアイテムは、取り外して別途自動車に固定してください。事故が発生した場合、これらの物品は危険な発射物となり、自動車の乗員を負傷または死亡させる可能性があります。
- 車椅子が事故に巻き込まれた場合、車椅子を継続して使用しないでください。

V. 車椅子のセットアップとご使用

B. 車載の使用（続き）

⚠ WARNING ⚠

警告： 自動車に乗っているときは、一時的に椅子に取り付けられているものをすべて取り外して固定してください。ベントトレイ、バッテリートレイ、酸素タンクホルダーに取り付けられた物品を自動車内に正しく個別に固定しないまま放置すると、これらの物品が事故時に危険な発射体となるおそれがあります。さらに、酸素タンクには、燃焼を激しく加速させる高圧ガスが含まれています。

- 自動車の座席として使用する場合は、ベントトレイ、バッテリートレイ、酸素ボンベホルダーに取り付けられているものを取り外し、正しく固定してください。
- 酸素ボンベホルダーを装着している場合は、自動車の座席として使用しないでください。

注意：RESNAまたはISO規格のコピーを入手するには、以下の規格団体に連絡してください。：

RESNA

1700 N Moore St Ste 1540
Arlington, VA 22209
Phone: 703-524-6686
Fax: 703-524-6630
Email: technicalstandards@resna.org

ANSI/RESNA 規格:

RESNA WC-4:2012, Section 18:

自動車に使用される車椅子固定及び乗員拘束システム

RESNA WC-4:2012, Section 19:

自動車の座席として使用される車椅子

RESNA WC-4:2012, Section 20:

自動車用車椅子着座システム

国際標準化機構 (International Organization for Standardization /ISO)

BIBCII
Chemin de Blandonnet 8
CP 401
1214 Vernier, Geneva
Switzerland
Phone: +41 22 749 01 11
Fax: +41 22 733 34 30
Email: central@iso.org

ISO規格:

ISO 10542-1:2012 障害者のための技術的なシステム及び援助

— 車椅子の固定装置及び乗員拘束装置 — Part 1: すべてのシステムの要件とテスト方法

ISO 16840-4:2009 車椅子座席- Part 4: 自動車用座席システム

ISO 7176-19:2008 車椅子- Part 19:

自動車の座席として使用するための車輪移動装置

V. 車椅子のセットアップとご使用

C. 高さ調整式 T 型アームレスト

1. 取り付け

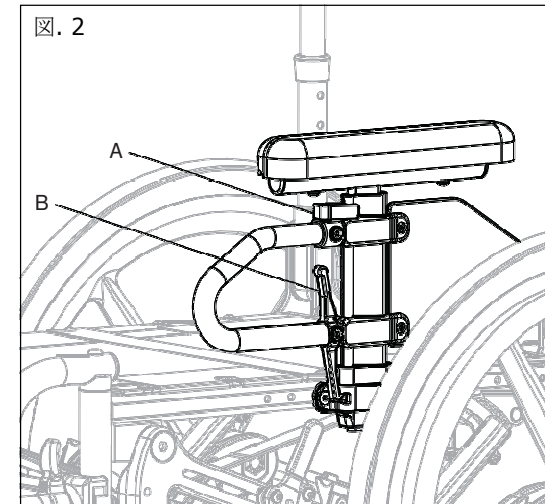
- a. 外側のアームポストを、車椅子フレームに取り付けられている受けにスライドさせます。
- b. アームレストが自動的に所定の位置にロックされます。ロックレバーが図のようになっていることを確認します (図2:B)。

2. 高さ調整

- a. リリースレバーを回します (図2:A)。
- b. アームレストパッドを目的の高さまで上下にスライドさせます。
- c. レバーをアームポストに対してロック位置に戻します。
- d. 上腕がしっかりと固定されるまで、アームパッドを押します。ロックレバーが図のようになっていることを確認します (図2:A)。

3. アームレストの取り外し

- a. リリースレバー (図2:B) を握り、アームレストを取り外します。



V. 車椅子のセットアップとご使用

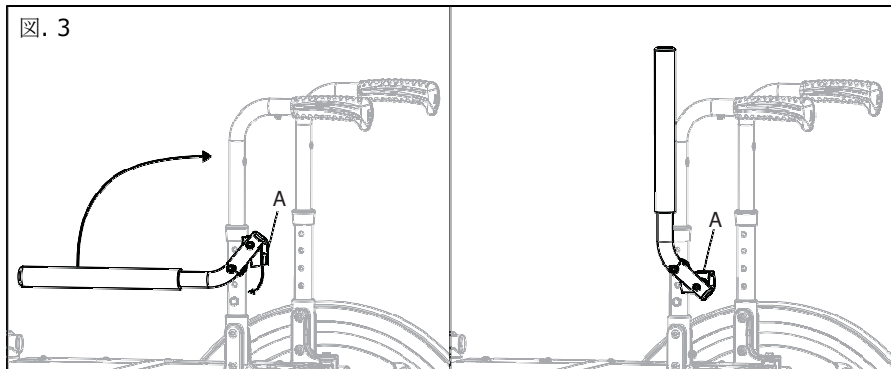
D. チューブラーフリップアップアームレスト

⚠ WARNING ⚠

警告：チューブラーフリップアップアームレストを使用して体重を支えないでください。チューブラーフリップアップアームレストは腕を乗せるためのもので、体重を支えるために使用すると転倒して重傷を負う可能性があります。

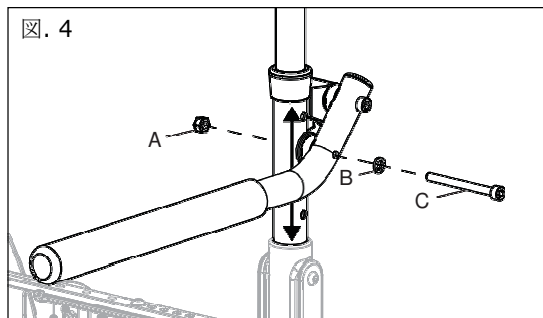
1. 上げ方
 - a. ストップブロック（図3：A）が背パイプに当たるまでアームレストを持ち上げます。
2. 下げ方
 - a. ストップブロック（図3:A）の上部が背パイプに当たるまで、アームレストを下げます。

図. 3



3. 高さ調整
 - a. 5mm六角レンチと10mmレンチを使用して、ネジ（図4:C）、ワッシャー（図4:B）、およびナット（図4:A）を取り外します。
- 注意：ハードウェアを取り外すと、アームレストと背パイプの間にあるサドルが落ちます。後で使用するためにサドルを保存する
- b. アームレストを、ご希望の高さに合う背パイプの穴に移動します。
 - c. 手順Aからハードウェアを取り付け直し、反対側で同じ穴を使用してアームレストが水平になるように繰り返します。

図. 4



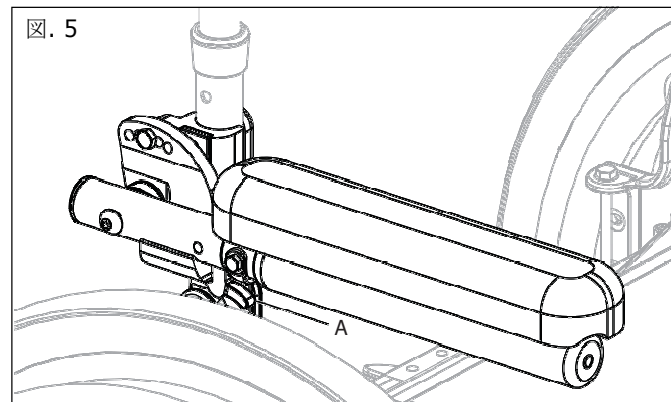
V. 車椅子のセットアップとご使用

E. 角度・長さ段階調整式フリップアップアームレスト

使用方法

1. リリースレバー（図5：A）を上を押してアームレストを解除し、上にスイングします。アームレストを動作位置に戻すには、レバーが「カチッ」と音がしてロックされるまでアームレストを押し下げます。

図. 5



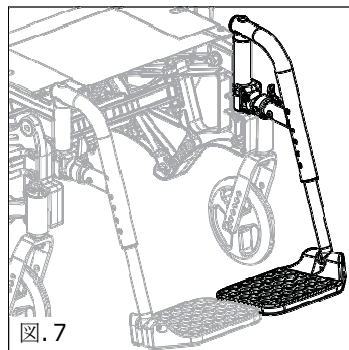
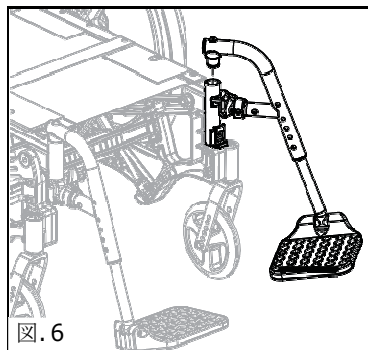
V. 車椅子のセットアップとご使用

F. スイングアウェイハンガー

⚠ WARNING ⚠

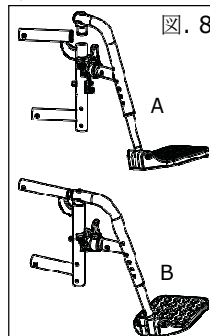
警告：車椅子を使用したり、車椅子に乗ったりする前に、ハンガーがきちんと固定されていることを確認してください。椅子の使用または操作中にハンガーのロックを解除すると、転倒または操作できなくなる可能性があります。

- 取り付け
 - スイングアウェイのピボットサドルを、フットレストがフレームの内側または外側を向くようにしてフロントフレームチューブのレシーバーに取り付けます（図6）。
 - フットレストを回転させて、ラッチブロックの所定の位置にロックされるまでフレームと位置が合うようにします（図7）。
- フットレストを振る
 - リリースラッチをフレームに向かって押します。
 - 必要に応じて、フットレストを外側または内側に回転します。
- 取り外し
 - フットレストを取り外すには、リリースラッチをフレームの方向に押します。
 - フットレストをまっすぐ上に持ち上げて取り外します。また、フットレストを持ち上げる前に、内側または外側に振ることもできます。



G. 4-wayラッチ付きスイングアウェイハンガー

- 取り付け
 - スイング式ピボットサドルをフロントフレームチューブのレシーバーに配置します（図8：A）。
 - フットレストを回転させて、フレームと揃え、ラッチブロックの所定の位置にロックします（図8：B）。
- フットレストを振る
 - リリースラッチを押したり引いたりします。
 - 必要に応じてフットレストを外側または内側に回転させます。
- 取り外し
 - フットレストを取り外すには、リリースラッチを押すか引きます。
 - フットレストをまっすぐ上に持ち上げて取り外します。フットレストを持ち上げる前に、フットレストを内側または外側に振ることもできます。



V. 車椅子のセットアップとご使用

H. 延長チューブ

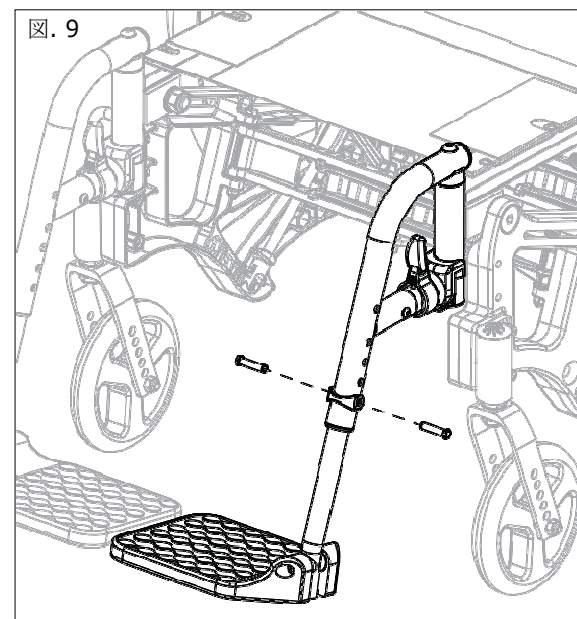
1. 調整

- ハンガーチューブの両側から取り付け留め具を取り外します。
- フットレスト延長チューブを希望の高さまでスライドさせます。
- 穴を並べて、ハンガーと延長チューブを介して目的の穴にファスナーを組み立て直します。
- 反対側も同様の手順で行います（図9）。

最も低い位置では、フットレストは地面から最低2.5インチ（6.35センチ）離してください。設定が低すぎると、通常の使用時に予想される障害物に衝突することがあります。車椅子が急に止まって前に傾くことがあります。

⚠ WARNING ⚠

警告：移乗の際は、つまずかないようご注意ください。フットレストの間に足を挟まないように注意し、車椅子が前に倒れる可能性があるため、フットレストに体重をかけないようにしてください。転倒すると大けがの原因になります。

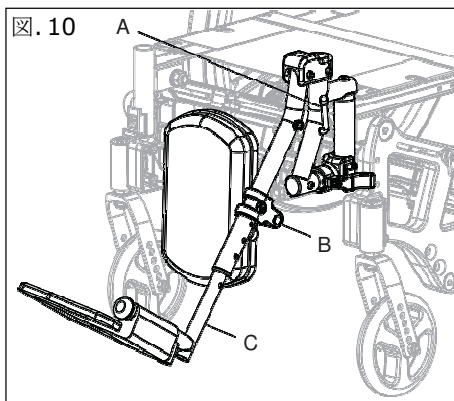


V. 車椅子のセットアップとご使用

I. エレベータリングフットレスト

1. 取り付け

- スイングアウェイのピボットサドルを、フットレストがフレームの内側または外側を向くようにして、フロントフレームチューブのレシーバーに取り付けます。図6および7に示すように、フットレストをスイングして離れるようにします。
- ラッチブロックの所定の位置にロックされるまで、フットレストを回転してフレームと位置合わせします。



2. 取り外し

- フットレストを取り外すには、リリースラッチをフレームの方向に押します。
- フットレストを外側に回して持ち上げます。

3. 延長チューブの調整

- パッドブラケット中央のレッグレストチューブにねじ込まれている取付ボルトを外します(図10:C)。状況によっては、このボルトをピボットブラケットの下チューブに挿入することがあります。
- フットレスト延長チューブを希望の高さまでスライドさせます。
- 穴を合わせて、レッグレストチューブとエクステンションチューブにボルトを取り付けます。
- 反対側でも同様の手順に従います。

4. 角度調整

- 上げるには、延長チューブの背面を持ち上げます(図10:A)。ロッドは、ラチェットをこの方向にスライドします。希望の位置で停止します。
- 下げるには、足を延長チューブの後ろからしっかりと持ちます(図10:A)。レバーを前に引いて(図10:B)、レバーを押しながらレッグレストを持ち上げます。レバーを放すと、レッグレストが所定の位置にロックされます。

最下点では、フットレストは地面から少なくとも2インチ (6.35 cm) 離す必要があります。設定が低すぎると、通常の使用で見つかる予想される障害物に衝突する可能性があります。車椅子が急に止まって前に傾くことがあります。



警告: 移乗の際は、つまずかないようにご注意ください。フットレストの間で足を挟まないように注意し、車椅子が前に倒れる可能性があるため、フットレストに体重をかけないようにしてください。転倒すると大けがの原因となります。

V. 車椅子のセットアップとご使用

J. プロエレベータリングフットレスト (Pro ELR)

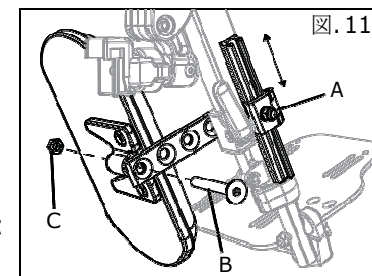
取り付け

注意: スウィングアウェイハンガーと同じ方法で椅子に取り付けられます。

- スイングアウェイピボットサドルをレッグレストがフレームの内側または外側を向くようにしてフロントフレームチューブのレシーバーに配置します。
- レッグレストを回転させて、フレームと揃え、ラッチブロックの所定の位置にロックします。

カーフパッドの高さ調整

- 10mmレンチを使用してナット(図11:A)を緩めます。
- カーフパッドのアームを上下にスライドさせて、目的の場所に置き、ナットを締め直します。

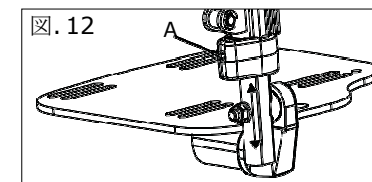


カーフパッドの奥行調整

- 5mm六角レンチと13mmレンチを使用して、カーフパッドアームのネジ(図11:B)とナット(図11:C)を取り外します。
- 4つの穴の目的位置を選択し、ねじとナットを取り付け直します。

フットレストの長さの調整

- 止めねじ(図12:A)を4mm六角レンチで緩めます。
- 延長チューブを希望の長さになるようにスライドさせ、止めねじを締めて固定します。

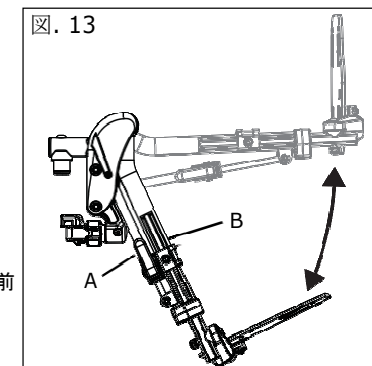


使用方法

- ProELRを上げるには、レッグレストチューブ(図13:A)を希望の仰角まで持ち上げます。
- ProELRを下げるには、レバーロック(図13:B)を押したままレッグレストチューブ(図13:A)を押下げます。

注意: レバーロックを押したときに急に落下しないように、Pro ELRを椅子から取り外すか、Pro ELRの重量を下げながら取り外します。

注意: カーフパッドを外側に振ると、移動時に車椅子の前面がクリアになります。



取り外し

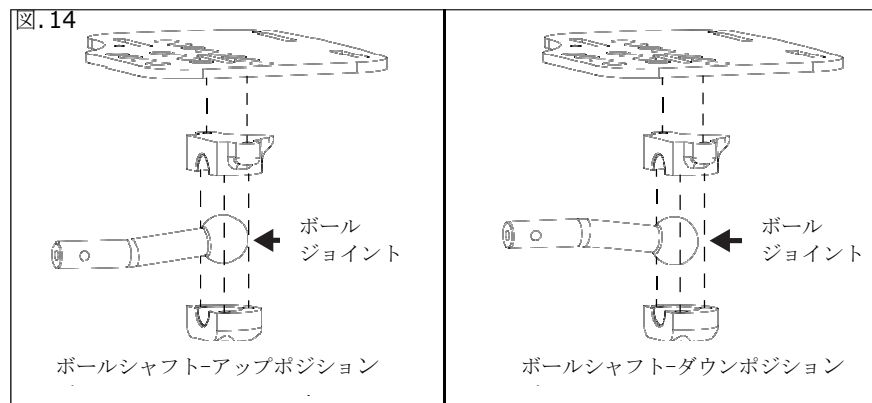
- レッグレストを取り外すには、リリースラッチを押すか引いてください。
- レッグレストをまっすぐ上に持ち上げて外します。レッグレストを持ち上げる前に、内側または外側に振ってもかまいません。

V. 車椅子のセットアップとご使用

K. マルチアングルフットレスト

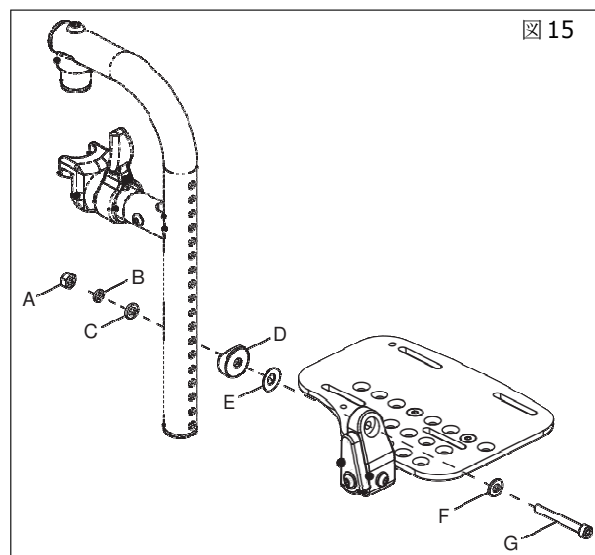
1. フットレスト角度の変更 (図14)

マルチアングルフットレストはボールジョイントを使用しており、フットプレートの上部の異なる領域に圧力を加えるだけでフットレストを様々な角度に設定できます。



2. フットレストの高さを変更する

- 5 mm六角レンチと10 mmレンチを使用して、ネジ(図15:G)、ワッシャー(図15:F)、ワッシャー(図15:E)、サドルスペーサ(図15:D)、ワッシャー(図15:C)、ワッシャー(図15:B)、およびナット(図15:A)を取り外すことにより、ハンガーからフットプレートアセンブリを取り外します。
- フットプレートアセンブリを希望の高さまでスライドさせ、最も近い穴にハードウェアを取り付け直します。



V. 車椅子のセットアップとご使用

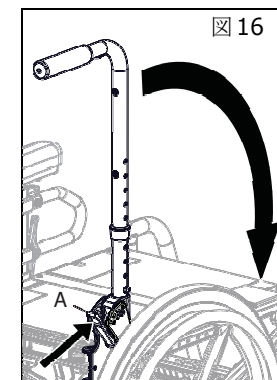
L. バックレスト

⚠ WARNING ⚠

警告: 使用中は、センター支柱で椅子を持ち上げたり傾けたりしないでください。アジャストハイトバックプッシュハンドルを連結するセンタストラットや、取り外し可能なストローラハンドルプッシュハンドルを連結するセンタストラットを保持して椅子を持ち上げたり傾けたりすると、車椅子が破損して転倒したり、制御不能になることがあります。転倒または制御不能により、搭乗者が重傷または死亡する可能性があります。

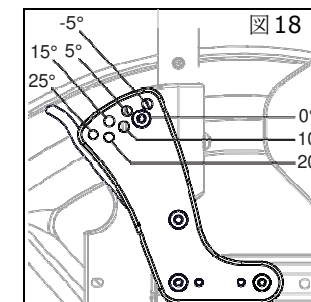
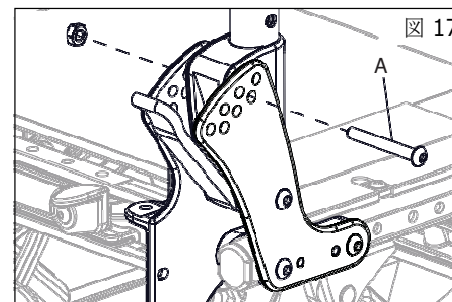
1. バックレストの折りたたみ

- 折りたたみ式バックレストが付いている場合は、背パイプ(図16:A)を車椅子の前面に向けて押し、レバーを外します。背シートが取り付けられている場合は、背を折りたたむために左右のレバーを同時に外してください。
- ラッチレバーを押したまま、バックレストを前方へ倒します。レバーはバックレストが倒れ始めたら離して構いません。



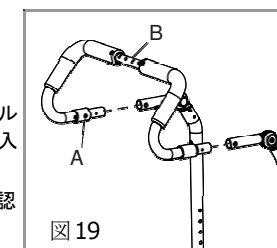
2. 角度調整

- 4mm六角レンチと10mmのレンチを使用し、ネジ(図17:A)、ワッシャー、ナットを取り外します。
- バックレストを希望の角度に傾けます。角度は5度ずつ変更でき、上段の穴は-5°・5°・15°・25°、下段の穴は0°(垂直)・10°・20°に対応しています(図18)。
- 取り外したネジを取り付け、ワッシャーとナットで締めます。
- 反対側も同様に調整してください。



3. 取り外し式高さ調整延長グリップ

- ハンドルのチューブの下端に向かって車椅子の両側にあるボタン(図19:A)を押して、ロックタブを外します。
- ハンドルをレシーバーから引き出して取り外し、ハンドルをレシーバーに押し込んで取り付けます。左右同時に挿入するとスムーズに入ります。
- スナップボタンがレシーバーに接続されていることを確認します。



4. ダイナミックバック

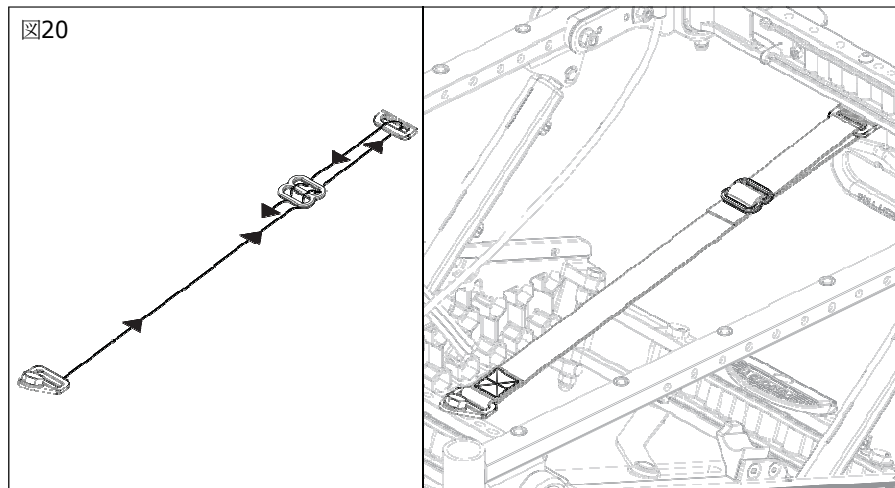
このバックについては、車椅子と一緒に別途提供されている取扱説明書を参照してください。

V. 車椅子のセットアップとご使用

M. ストラップの調整・取り付け

ストラップルーティング

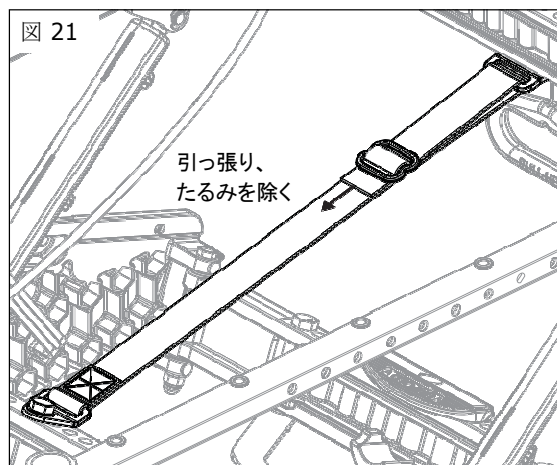
1. ストラップは1つのブラケットに取り付けられています。ストラップの反対側の端を取り、中央のクリップの下、上下に移動します。ストラップの端をエンドブラケットに通して外します。ストラップを中央のクリップに戻し、下、上下に繰り返します。ストラップのルーティングについては、図20を参照してください。



ストラップの調整

1. ストラップの端を引っ張り、ストラップのたるみを取り除きます。場合によっては、中央のクリップにたるみを押し込み、ストラップの端を引っ張り、たるみを取り除く必要があります。
2. 車椅子が正しく折りたたんだり、開いたりしていることを確認します。

注意: 調整が正しい場合は、折りたたみ時に3つのクロスストラップすべてが中央を超えます。



V. 車椅子のセットアップとご使用

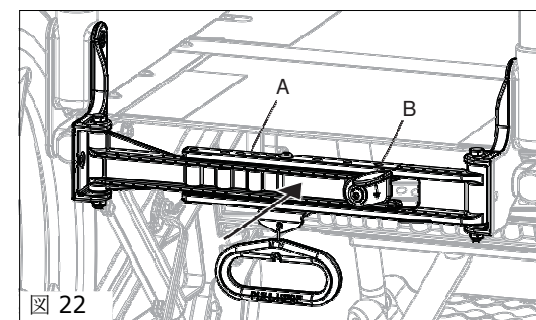
N. 車椅子の折りたたみ方・開き方

⚠ WARNING ⚠

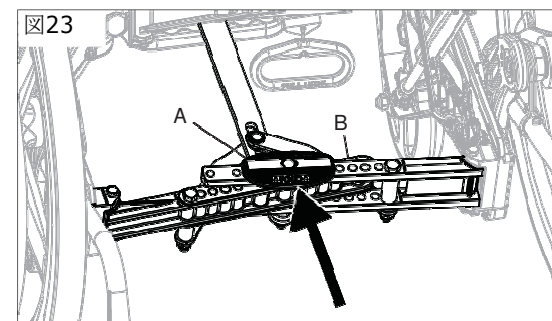
警告: 折りたたみ作業中は、赤いロックアウトタブとフットパッド以外の部分を押さないでください。赤色のロックアウトタブとフットパッド以外のパーツを押すと、移動中のクロスブレースにピンチポイントが発生する可能性があります。ピンチポイントはけがの原因になります。

1. 車椅子の折りたたみ方

- a. ホイールロックがかかっていることを確認します。
- b. ハンガーの取り外しは任意ですが、推奨いたします(フットプレートは最小折り曲げ幅を制限します)。
- c. 必ず酸素ボンベ、点滴棒、付属品を取り外し、適切に保管してください
- d. 赤いロックアウトタブ(図22:B)を押し下げ、前に押し、上部クロスブレース(図22:A)を内側へ折りたたみます。



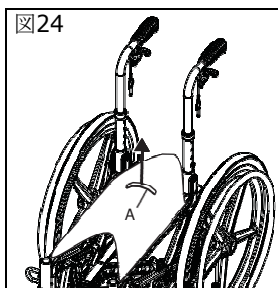
- e. 後下のクロスブレース(図23:B)に付いている赤いフットパッド(図23:A)を足で押して、下のクロスブレースを内側へ折りたたみます。



V. 車椅子のセットアップとご使用

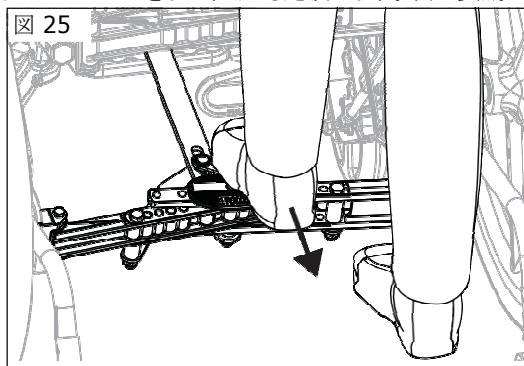
N. 車椅子の折りたたみ方・開き方（続き）

- f. 車椅子が完全に折りたたまれるまで、シートの中央にある折りたたみストラップ(図24:A)を引き上げます。わずかな角度で上に引っ張ると、車椅子の片側が床に留まりやすくなり、もう片側が動きやすくなります。
- g. フォールドダウンバック(セクションN、ステップ1を参照してください。)を装着している場合は、背パイプを折りたたんでください。



2. 車椅子の開き方

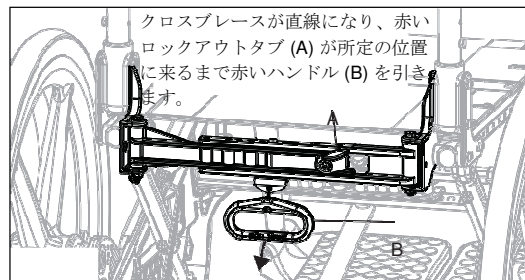
- a. ホイールロックがかかっていることを確認します。
- b. 車椅子の両側をできるだけ離すようにして、車輪やハンドルを少し引いて横にしてください。
- c. 足で下のクロスブレースをまっすぐに引き戻します。図25参照。



- d. シートの下にある赤いハンドル(図26:B)を、上側のリアクロスブレースがまっすぐになり、赤いロックアウトタブ(図26:A)が上向きになり、カチッと音がするまで引き出します。

⚠ WARNING ⚠

警告: 車椅子に移動する前に、クロスブレースが揃っていて、赤いロックアウトタブが固定されていることを確認してください。クロスブレースの位置が合っていることと、赤いロックアウトタブが固定されていることを確認しないと、転倒したりけがをしたりする可能性があります。



- e. クロスブレースが内側に折れないように、赤いロックアウトタブ(図26:A)が配置されていることを確認します。

V. 車椅子のセットアップとご使用

O. チルト機構

⚠ WARNING ⚠

警告: 傾けるときは、指をシートフレームから離し、車椅子の下から離してください。シートフレームや車椅子の下のピンチポイントに指が引っかかることがあります。

注意: サイドガードを最も低く設定すると、最後の最大傾斜の角度を妨げる可能性があります。

1. 手動(二重トリガー)チルト

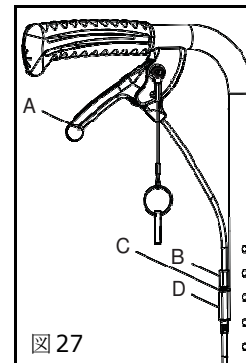
a. チルトシートフレーム

- i. スクイズトリガー(図27:A)
- ii. トリガーを押したまま、シートフレームの後部をご希望の位置まで上下させます。
- iii. トリガーを解放して所定の位置にロックします。

b. ケーブルの調整

- i. 10 mmおよび3/8インチ(10 mm)のオープンエンドレンチを使用して、ケーブルアジャスターボディ(図27:D)からジャムナット(図27:C)を外します。
- ii. トリガーがケーブルを引き始める前に1/8インチ(8 mm)の遊びを持つように、ケーブルのたるみがなくなるまで、ねじケーブルアジャスタ(図27:B)を差し込んだり外したりします。
- iii. ケーブルの機能を確認します。チルト機構はすべての位置でロックする必要があります。
- iv. ケーブルを調整したら、反対側にも同じ手順を繰り返し、傾斜が正しく機能していることを確認します。ジャムナットをケーブルアジャスターボディ(両方のケーブル)に固定し直す場合は、ナットだけを締めてください。オスのアジャスターボディやアジャスターボディは締めません。

c. トリガーのロック



⚠ WARNING ⚠

警告: ロックピンを使用してロック解除されたチルトモードを維持しないでください。重傷を負ったり、死亡する可能性があります。

i. トリガーをロック位置に固定するには、次の手順を実行します:

- a. 背パイプのハンドルを押して、車椅子がロックされていることを確認します。
- b. ランヤードでトリガーに取り付けたピンをトリガーマウントの穴に差し込みます。図28参照。
- c. トリガーを軽く押して後ろのパイプを押して車椅子を傾け、トリガーがティルトロックを解除しないようにします。

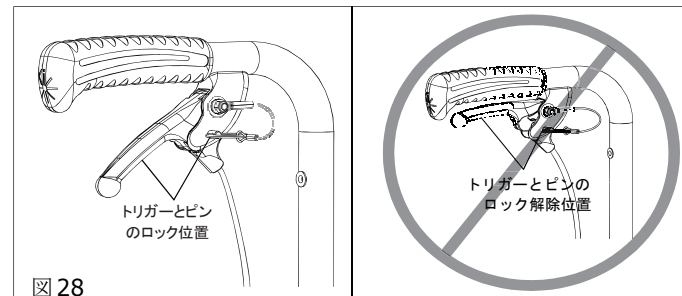


図28

V. 車椅子のセットアップとご使用

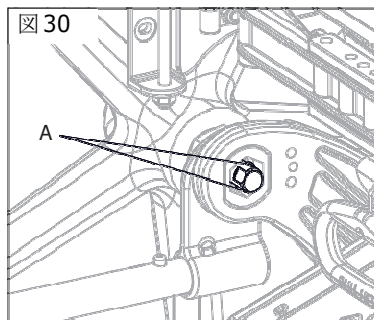
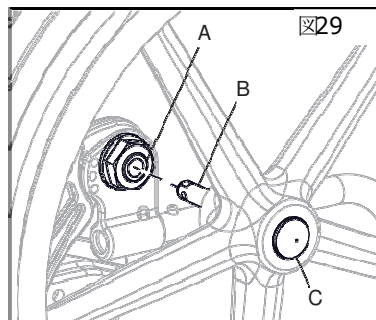
P. 後輪

⚠ WARNING ⚠

警告: 車 椅子を操作する前に、押しボタンが完全に伸び、内側のロックボールが完全にかみ合っていることを確認してください。脱落や転倒の原因となります。転倒は、あなたや他の人に重傷や死をもたらす可能性があります。

1. ホイールの取り付け

- 車軸のクイックリリースボタン(図29:C)を押して、ロッキングボール(図29:B)を引っ込みます。車軸リリースボタンを押したときと伸ばしたときの位置の違いと、車軸の反対側のロックボールに与える影響に注意してください。
- 車軸が離れている場合は、車輪のベアリングハウジングに挿入します。
- クイックリリースボタンをもう一度押し、車軸を車軸スリーブ(図29:A)に差し込みます。
- ボタンを放すと、車軸がスリーブにロックされます。リリースボタンを離してもロックボールがロック位置まで移動しない場合は、アクスル長さを調整する必要があります(図30)。



2. ホイールの取り外し

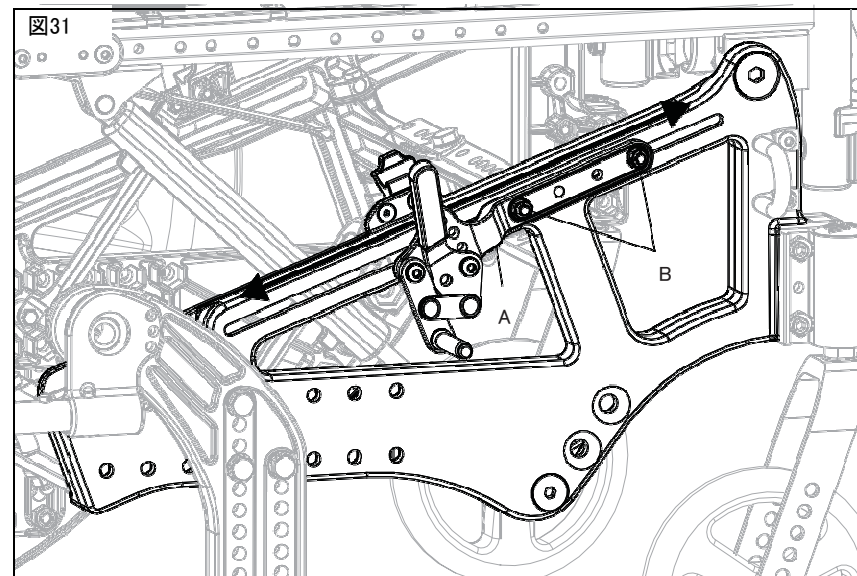
- ホイールをハブの近くに持ち、車軸の外側の端にあるボタンを押します。
- ボタンを押したまま、ホイールと車軸を車軸スリーブから引き出します。

V. 車椅子のセットアップとご使用

Q. ホイールロック

1. ホイールロックの調整

- 10 mmレンチまたはソケットを使用して、マウントプレート(図31:B)の六角ボルト(図31:A)を緩めます(取り外さない)。
- マウントプレートを前後にスライドさせて、適切にロックします。
- 六角ボルトを締め直します。



注意: 2本のボルトを交互に回しながら、ホイールハードウェアを少しずつ緩めたり締めたりしてください。これは、締結具が固く締まってしまう、取り外しにくくなる可能性のある一組のハードウェア上のオーバークランプを防止します。

V. 車椅子のセットアップとご使用

R. 転倒防止装置

1. 転倒防止装置を上げる
 - a. 転倒防止装置の先端のボタン(図32:A)を押します。
 - b. 押したボタンがレシーバー下部の穴に入るまで、転倒防止を上にか切り替えます。
2. 転倒防止装置の解除
 - a. 転倒防止装置の先端のボタン(図32:A)を押します。
 - b. 転倒防止装置をまっすぐ後ろに引いて、レシーバーから転倒防止装置を取り外します。
 - c. 取り付け直すには、ボタンを押して固定用チップをレシーバーに押し込み、レシーバーの穴をフロント固定用ボタンに合わせます。
3. 座面の高さの設定
 - a. 転倒防止装置の下側のボタン(図32:B)を押します。
 - b. 転倒防止装置を目的の高さまで引き下げます。
 - c. 下のボタンをクリックして、高さを設定する穴の1つを選択します。
 - d. 車椅子の反対側についても同じ手順を繰り返します。車椅子の両側の転倒防止装置が同じようにセットされていることを確認します。

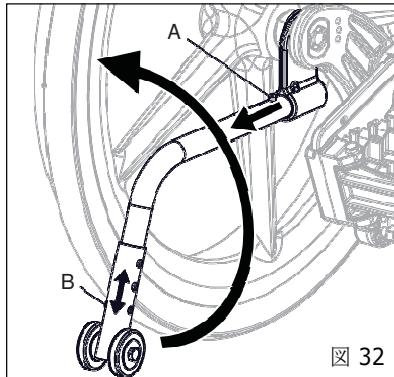


図 32

S. 酸素ボンベホルダー

⚠ WARNING ⚠

警告:酸素ボンベは正しく使用しないと危険です。酸素ボンベの使用について、酸素ボンベの供給元から適切な指示を受けていることを確認してください。酸素ボンベの供給業者から提供された使用に関するすべての警告に注意し、すべての指示に従わなければなりません。酸素ボンベの取り扱いを誤った場合は、重傷を負ったり、死亡する可能性があります。

1. 使用方法

この酸素ボンベホルダーは、Dシリンダーを車椅子に固定するように設計されています。ボトルがホルダーの底にしっかりと固定されていることと、クランプがシリンダーを引き出せないところまで締められていることを確認してください。

酸素タンクは危険な場合がありますので、必ずタンクの取扱業者の指示に従ってください。

VI. メンテナンス

A. 車椅子のチェック

定期的なメンテナンスは、車椅子の性能を向上させ、車椅子の寿命を延ばします。車椅子の修理および部品の交換は、メンテナンスは販売店や車椅子知識がある方が行う必要があります。

1. 一般的なチェック

- a. 少なくとも月に1回は椅子を掃除してください。汚れやすい環境で使用している場合は、より頻繁に椅子を掃除する必要があるかもしれません。
- b. すべてのネジ等の留め具が締まっていることを確認してください。特に明記されていない限り、4.51 N * mで締めてください。

⚠ CAUTION ⚠

注意：タイヤが摩耗したら交換してください。摩耗したタイヤでは、ブレーキが適切にグリップしない場合や、傾斜面にあるときに椅子が意図せず動く可能性があります。

c. タイヤとキャスターを確認してください：

- タイヤの摩耗をチェックします。タイヤに溝がなかったり、ひび割れが見られる場合は、タイヤを交換してください。
- バルブシステムを備えたインフレーターブルタイヤを使用している場合は、空気圧を確認し、タイヤのサイドウォールに記載されている空気圧に設定します。

d. スポークが緩んでいないかスポークホイールを確認します。

e. ブレーキを確認します。タイヤが摩耗すると、ブレーキを調整する必要があります。

VI. メンテナンス

B. 日常のメンテナンスについて

1. 週毎のメンテナンス
 - a. ブレーキをチェックして、正しく調整されていることを確認します。
 - b. アクスルスリーブをチェックして、アクスルスリーブナットが締まっていることを確認します。
 - c. スポークの破損、曲がり、緩みがないか確認します。
 - d. キャスターが良く回転することを確認します。
 - e. タイヤとキャスターに摩耗箇所がないか点検します。
 - f. エアタイヤの場合、空圧が適切か確認します。
 - g. ハンドグリップが回転したり引っ張られたりしないことを確認します。
2. 月毎のメンテナンス
 - a. 後輪の車軸を点検し、必要に応じて締めます。
 - b. キャスターのベアリングに頭髮等が付着していないか調べ、必要に応じて取り外します。
 - c. ベレー気を点検して、しっかり固定されていることを確認します。ブレーキがタイヤに正しくかみ合っていることを確認してください。
 - d. すべてのネジ等の留め具がしっかりと固定されていることを確認します。
 - e. 変形、傷、亀裂、くぼみ、または曲がりがないかフレームを検査します。これらは、製品の故障につながる恐れのあるフレームの疲労の兆候である可能性があります。車椅子の使用をただちに中止し、販売店に連絡してください。
3. 年毎のメンテナンス
 - a. ご購入いただいた販売店による車椅子の点検と調整を依頼してください。



注意：調整後、椅子を使用する前に、すべての留め具がしっかりと固定されていることを確認してください。



注意：フレームを損傷する可能性があるため、ネジ等を締めすぎないでください。

VI. メンテナンス

C. 清掃・洗浄

1. 車軸とタイヤ
 - a. 湿った布で毎週車軸と車輪の周りを掃除してください。
 - b. 頭髮や糸くずがキャスターのハウジングに留まります。絡まった頭髮や糸くずを取り除くために、キャスターハウジングを6か月ごとに分解・清掃します。

注：この車椅子にはW浸透油を使用しないでください。ベアリングを破損する恐れがあります。

注：キャスターやタイヤに化学洗浄剤を使用しないでください。

D. 保管

1. 使用しないときは、椅子を清潔で乾燥した場所に置いてください。これを怠ると、椅子が錆びたり腐食したりすることがあります。
2. 製品が数週間保管されている場合は、製品が正しく機能していることを確認する必要があります。必要に応じて、すべての品目を点検して整備する必要があります。
3. 製品が2か月以上保管されている場合は、使用する前に販売店による点検と点検が必要です。

VII. 保証

Ki Mobilityは、この車椅子のフレーム、クロスブレース、ハンガー、クイックリリースアクスルを、元の購入者の生涯にわたり材料や製造上の欠陥に対して保証します。この車椅子の他のすべてのKi Mobility製の部品は、Ki Mobility出荷日より1年間、この保証に基づいて材料および製造上の欠陥が発見された場合、ユーキ・トレーディングの選択によりその部品を修理するか交換するかを決定し、無償にてこれを実施します。

保証対象外

1. 下記については保証されません。
 - a. 着用アイテム：タイヤ、アームレストパッド、チューブ、アームレスト、プッシュハンドルグリップなど。
 - b. 放置（メンテナンスの不実施）、事故、誤用、または不適切な設置または修理に起因する損傷。
 - c. 重量制限の超過による損傷。
2. 保証は、製品のシリアル番号タグが取り外されたり、変更されたりすると無効になります
3. 保証は、製品が元の状態から変更されていて、その変更が故障の原因であると判断された場合は無効になります。
4. この保証は譲渡できません。ユーキ・トレーディングの販売店を通じて最初に購入されたご利用者にものみ適用します。

Ki Mobilityの対応

唯一の対応可能な責任範囲は、対象部品の修理または交換です。

製品ご利用者様に対応いただきたいこと

- a. 保証期間内に対象製品の状況や不具合を申し出てください。
- b. 製品に関する不具合の申告や修理依頼は、製品を購入された販売店を通じておこなってください。ここで示した保証以外で、市場におけるあらゆる慣例や暗黙のルールなどによる保証は除外されます。



CE